

2026 年度「スクールカウンセリング専門研修プログラム」

受講ガイド

スクールカウンセリング（SC）専門研修プログラム運営委員会

1. 本プログラムの趣旨

本プログラムは、スクールカウンセラーを基本に置きながら、スクールカウンセリングに携わる、すべての方の専門性を高めるために開講されます。

プログラムの特色は、以下の通りです。

- ① 現在のわが国の生徒指導上の諸課題の解決に十分に貢献できるよう、スクールカウンセリングの専門性の向上を図ることができるようになりました。
- ② 公認心理師や臨床心理士と同様に心理支援の基本的な知識やスキルを押さえたうえで、スクールカウンセリングに必要な実践的な専門性を高めるようにしました。
- ③ 生徒指導上の諸問題が生じた後の適切な支援に必要な知識や能力とともに、問題の未然防止、早期発見対応の支援に必要な知識や能力の育成をめざしました。
- ④ 上記の能力の育成に必要な「プログラム内容と各自の実践活動との往還」を実現するために各講座に自己学修時間を設け、講座で得た「気づき」や「発見」を実践活動にどう活かすかについて各自の課題に従い探究していただきます。（全科フル学修コースに該当）
- ⑤ プログラムは、第1分野「スクールカウンセリングの専門基礎」として3科目23講座、第2分野「スクールカウンセリングの方法」として5科目20講座、そして第3分野「スクールカウンセリングの課題と実践」として6科目18講座を設け、計14科目61講座を学修することによりプログラム全体が修了となるようにしました。
- ⑥ 上記の61講座はeラーニングで行われますが、これに加えて、医療現場での臨床活動を理解し、そこでの経験を医療との連携等において活かすようにするため、集合対面講座「医療機関実習」を設けました。受け入れ人数に限度があるため自由選択科目としました。

2. 受講対象者及び受講コースの種類

受講対象者は、「ガイダンスカウンセラー有資格者」、「構成団体有資格者（カウンセリング心理士、学校カウンセラー、学校心理士、キャリア・カウンセラー、教育カウンセラー、臨床発達心理士）」、「公認心理師有資格者」及び「一般の方」です。それぞれで受講料が異なります。

2026年度は、以下の5つのコースの受講者を募集します。

- (1)「全科受講者（全科フル学修コース）」：全科目61講座を「自己課題探究時間（レポート）あり」で学修するコースです。
このコースの方は自由選択科目「医療機関実習」を選択できます。
- (2)「全科受講者（全科動画学修コース）」：全科目61講座を「自己課題探究時間（レポート）なし」で学修するコースです。
このコースの方は、自由選択科目「医療機関実習」を選択できません。
- (3)「科目等受講者（13講座トライアルコース）」：トライアル（試し）のため科目講座の一部分〔科目1（3講座）と科目2（10講座）の計13講座〕を体験的に学修するコースです。「自己課題探究時間（レポート）あり」で学修します。
※この「科目等受講者（13講座トライアルコース）」の終了者は、次年度以降に「全科フル学修コース、全科動画学修コース」へ移行して受講することができます。その際、すでに受講した講座（13講座）を受講する必要はなく、受講料もすでにお支払いした分が差し引かれます。
- (4)「48講座ステップアップ・全科フル学修コース」：13講座トライアルコースの終了者のみ申込み可能。残りの48講座を「自己課題探究（レポート）あり」で学修するコースです。
このコースの方は自由選択科目「医療機関実習」を選択できます。
- (5)「48講座ステップアップ・全科動画学修コース」：13講座トライアルコースの終了者のみ申込み可能。残りの48講座を「自己課題探究（レポート）なし」で学修するコースです。
このコースの方は自由選択科目「医療機関実習」を選択できません。

3. プログラムの構造と学修の仕組み

- (1) プログラムの構造(末尾の資料1「カリキュラム表」参照)

- ① プログラム修了に必須な科目 61 講座と自由選択科目 1 講座から構成されています。
- ② 必須科目の 61 講座は、第 1 分野「スクールカウンセリングの専門基礎」として 3 科目 23 講座、第 2 分野「スクールカウンセリングの方法」として 5 科目 20 講座、そして第 3 分野「スクールカウンセリングの課題と実践」として 6 科目 18 講座から構成されています。
- ③ プログラム修了とは関係のない自由選択科目として「医療機関実習」が開講されます。

(2) 全科受講者の標準修業年限

1 年度(2026 年 4 月 1 日～2027 年 1 月 31 日まで)で修了することを標準修業年限とします。

※1 年度で修了できない場合

全科受講者（全科フル学修コース・全科動画学修コース）の場合は、次年度に限り継続受講を可能とします（最大 2 年）。
 その場合、20,000 円の継続受講料（受講管理料 10,000 円を含む）を徴収させていただきます。

(3) 学修方法

- ① 科目 1～14 の 61 講座は、e ラーニング(オンデマンド動画学修)で行います。
 自由選択科目 15「医療機関実習」のみ集合対面で行います。なお、「医療機関実習」は全科受講者（全科フル学修コース）の方のみの受付となります。
- ② e ラーニング（オンデマンド動画）の初回の動画視聴はスキップができませんが、復習時はスキップ可能です。視聴速度は初回視聴から調節可能です。

(4) 学修時間

- ① 「全科受講者（全科フル学修コース）」と「科目等受講者」（13 講座トライアルコース）、「48 講座ステップアップ・全科フル学修コース」は、標準時間 90 分の動画学修と自己課題探究時間をセットにして学修を深めるようにします。
 ※「自己課題探究時間」とは、受講内容の振り返りで得た「気づき」や「発見」を各自の課題に従い実践活動にどう活かすかについて探究・考察し、レポート作成を行う時間のことです。各講座につき、90 分の時間を想定しています。
- ② 「全科受講者（全科動画学修コース）」、「48 講座ステップアップ・全科動画学修コース」は、動画視聴のみで学修します。
- ③ 「全科受講者（全科フル学修コース）」の科目 1～14 の 61 講座の学修時間
 1 講座 3 時間（動画学修時間約 90 分、自己課題探究時間 90 分）⇒計 183 時間
- ④ 「全科受講者（全科動画学修コース）」の科目 1～14 の 61 講座の学修時間
 1 講座 1.5 時間（動画学修時間約 90 分）⇒計 91.5 時間
- ⑤ 「科目等受講者」（13 講座トライアルコース）の科目 1～2 の 13 講座の学修時間
 1 講座 3 時間（動画学修時間約 90 分、自己課題探究時間 90 分）⇒計 39 時間
- ⑥ 「48 講座ステップアップ・全科フル学修コース」の科目 3～14 の 48 講座の学修時間
 1 講座 3 時間（動画学修時間約 90 分、自己課題探究時間 90 分）⇒計 144 時間
- ⑦ 「48 講座ステップアップ・全科動画学修コース」の科目 3～14 の 48 講座の学修時間
 1 講座 1.5 時間（動画学修時間約 90 分）⇒計 72 時間
- ⑧ 自由選択科目 15「医療機関実習」は、5 日間（1 日 8 時間）の計 40 時間

(5) 講座のテスト、合否判定、ならびにプログラムの修了判定

1) 全科受講者（全科フル学修コース） ※自己課題探究レポートあり

- ① 科目 1～14 の e ラーニングは、各講座とも約 30～45 分ごとに視聴確認を行い、動画の視聴終了後に講座の基本的内容の理解に関する確認テスト（「理解度テスト」といいます）を行います。この理解度テストは、80%以上の正答率で合格です。合格に達するまで何回もチャレンジできます。
- ② 理解度テストに合格すると、各講座の自己課題探究文が提示されます。それに沿って自己課題探究を行い、その結果をレポートとして提出してください。提出されたレポートは一定の基準に基づいて「合否」の結果が与えられます。「否」の場合は再度、提出してください。※なお、運営委員会から委嘱された者がレポート採点を行います。レポートの採点は、標準で数日間を見込んでいますが、1 週間程度かかることもあります。
- ③ 講座のレポートに合格すると、当該講座の学修が完了し「受講証明書」が発行されます。各種「研修証明」に使用してください。

- ④ 科目 15「医療機関実習」については、基本的に指導者の評価をもとに「プログラム運営委員会」が合否判定を行い、「実習証明書」を発行します。
- ⑤ 科目 1～14 の全講座の合否判定結果をもとに「プログラム運営委員会」が「修了判定」を行い、理事会の議を経てプログラム全体の修了証明証（「修了証」）を発行します。
- ⑥ 修了証のほかに、**領域別専門研修（末尾の資料 2 を参照）**として「不登校専門研修」「いじめ専門研修」「自殺対応専門研修」「発達障害専門研修」「グループ対応専門研修」の 5 つの「研修証明書」を発行します。
- ⑦ 受講した講座は、ガイダンスカウンセラー資格更新のポイントになります。医療機関実習は領域Ⅰの 3 ポイント、その他の講座は 1 講座が領域Ⅰの 1 ポイントとなります。

2) 全科受講者（全科動画学修コース） ※自己課題探究レポートなし

- ① 科目 1～14 の e ラーニングは、各講座とも約 30～45 分ごとに視聴確認を行い、動画の視聴終了後に講座の基本的内容の理解に関する確認テスト（「理解度テスト」といいます）を行います。この理解度テストは、80%以上の正答率で合格です。合格に達するまで何回もチャレンジできます。
- ② 理解度テストに合格すると、当該講座の学修が完了し当該講座の「受講証明書」が発行されます。各種「研修証明」に使用してください。
- ③ 科目 1～14 の全講座の合否判定結果をもとに「プログラム運営委員会」が「修了判定」を行い、理事会の議を経てプログラム全体の修了証明証（「修了証」）を発行します。
- ④ 受講した講座は、ガイダンスカウンセラー資格更新のポイントになります（1 講座の受講が領域Ⅰの 1 ポイントとなります）。

3) 科目等受講者（13 講座トライアルコース） ※自己課題探究レポートあり

- ① 科目等受講者は、本年度、「科目 1 スクールカウンセリングの基礎：3 講座」と「科目 2 スクールカウンセリングの諸理論と実践：10 講座」の計 13 講座の受講となります。
- ② 講座動画の視聴後の理解度テスト、及び自己課題探究レポートならびに講座ごとの合否判定は、全科受講者（全科フル学修コース）の場合と同じです。
- ③ 講座のレポートに合格すると、当該講座の学修が完了し当該講座の「受講証明書」が発行されます。各種「研修証明」に使用してください。
- ④ 合格した科目・講座は、次年度以降に全科受講者として申請する際、受講が免除されます。
- ⑤ 受講した講座は、ガイダンスカウンセラー資格更新のポイントになります（1 講座の受講が領域Ⅰの 1 ポイントとなります）。

※科目等受講者（13 講座トライアルコース）の受講期間は 1 年度限り（2026 年 4 月 1 日～2027 年 1 月 31 日まで）とします。

4) 48 講座ステップアップ・全科フル学修コース ※自己課題探究レポートあり

- ① 本コースは、「第 1 分野 科目 3 児童生徒の臨床心理的理解：10 講座」と「第 2 分野 5 科目：20 講座」「第 3 分野 6 科目：18 講座」の計 48 講座の受講となります。
- ② 講座動画の視聴後の理解度テスト、及び自己課題探究レポートならびに講座ごとの合否判定は、**科目等受講者（13 講座トライアルコース）**の場合と同じです。
- ③ 講座のレポートに合格すると、当該講座の学修が完了し当該講座の「受講証明書」が発行されます。各種「研修証明」に使用してください。
- ④ 科目 15「医療機関実習」については、基本的に指導者の評価をもとに「プログラム運営委員会」が合否判定を行い、「実習証明書」を発行します。
- ⑤ 科目 3～14 の全講座の合否判定結果をもとに「プログラム運営委員会」が「修了判定」を行い、理事会の議を経てプログラム全体の修了証明証（「修了証」）を発行します。
- ⑥ 修了証のほかに、領域別専門研修（末尾の資料 2 を参照）として「不登校専門研修」「いじめ専門研修」「自殺対応専門研修」「発達障害専門研修」「グループ対応専門研修」の 5 つの「研修証明書」を発行します。
- ⑦ 受講した講座は、ガイダンスカウンセラー資格更新のポイントになります。医療機関実習は領域Ⅰの 3 ポイント、その他の講座は 1 講座が領域Ⅰの 1 ポイントとなります。

※48 講座ステップアップ・全科フル学修コースの受講期間は1年度（2026年4月1日～2027年1月31日まで）とします。

5) 48 講座ステップアップ・全科動画学修コース ※自己課題探究レポートなし

- ① 本コースは、「第1分野 科目3 児童生徒の臨床心理的理解：10 講座」と「第2分野 5 科目：20 講座」「第3分野 6 科目：18 講座」の計48 講座の受講となります。
- ② 講座動画の視聴後の理解度テスト、及び講座ごとの合否判定は、科目等受講者（13 講座トライアルコース）の場合と同じです。
- ③ 理解度テストに合格すると、当該講座の学修が完了し当該講座の「受講証明書」が発行されます。各種「研修証明」に使用してください。
- ④科目 3～14 の全講座の合否判定結果をもとに「プログラム運営委員会」が「修了判定」を行い、理事会の議を経てプログラム全体の修了証明証（「修了証」）を発行します。
- ⑤受講した講座は、ガイダンスカウンセラー資格更新のポイントになります（1 講座が領域Ⅰの1 ポイントとなります）。

※48 講座ステップアップ・全科動画学修コースの受講期間は1年度（2026年4月1日～2027年1月31日まで）とします。

4. 学年暦

- ① 申込受付期間 2026年1月～2月
 - 1) 全科受講者（全科フル学修コース）、全科受講者（全科動画学修コース）、科目等受講者（13 講座トライアルコース）の受付期間 ※2026 年度新規受講者
・2026 年1月20 日10：00～2月27 日17：00（予定）
 - 2) 48 講座ステップアップ・全科フル学修コース、48 講座ステップアップ・全科動画学修コースの受付期間
※13 講座受講終了者のみ
・2026 年2月3 日10：00～2月27 日17：00（予定）
 - 3) 全科受講者（全科フル学修コース）、全科受講者（全科動画学修コース）の継続受講の受付期間
※2025 年度受講者のみ
・2026 年2月3 日10：00～2月27 日17：00（予定）
 - 4) 医療機関実習
・2026 年2月3 日10：00～2月27 日17：00（予定）
- ② 参加 URL 送信時期 2026 年3 月半ば頃
- ③ 学修開始 2026 年4 月1 日
- ④ 学修修了（全てのコース） 2027 年1 月31 日
- ⑤ 自由選択科目 15「医療機関実習」
 - *5 日間の連続実習ではなく、2 回程度の分散実習になることがあります。
 - *定員は、5～12 月の期間に各月お一人ずつ、年間で8 名になります。
 - *希望者が多い場合は定員になりしだい、申し込みを締め切らせていただきます。
（申込みが出来なかった方は、次年度に「空き」がある場合、申し込みを受け付けます。）
 - *具体的な日程は、実習月（お申込み時に選択した月）の前月1 日以降15 日までに、実習希望日を連絡し、実習先の医療機関と個別に調整いただきます。
 - *事前（実習月の前月1 日まで）に、履歴書を実習先の医療機関に提出して頂く必要があります。
- ⑥ 修了等の認定 ※科目等受講者（13 講座トライアルコース）は除く。
 - *プログラム修了の認定を2027 年2 月の運営委員会で、修了者の決定を2027 年3 月末理事会で行う予定。

5. 受講料（コース別・会員種別）※金額はすべて税込みです

(1) 全科受講者（全科フル学修コース） ※自己課題探究レポートあり

【会員種別費用】

- ① ガイダンスカウンセラー有資格者 67,800 円
- ② 構成団体有資格者（カウンセリング心理士、学校カウンセラー、学校心理士、キャリア・カウンセラー、教育カウンセラー、臨床発達心理士のいずれかをお持ちの方）99,800 円
- ③ 公認心理師有資格者 126,450 円
- ④ 一般枠（上記のいずれの資格もお持ちでない方）168,600 円

※上記受講料は、2026 年度受講管理料（1 万円）込みの金額となります。

- ⑤ 自由選択科目 15 医療機関実習 30,000 円 *当該科目を選択した方のみ

長野県安曇野市内の医療機関での実習を予定しています。旅費・宿泊費は別途、自己負担となります。

(2) 全科受講者（全科動画学修コース） ※自己課題探究レポートなし

【会員種別費用】

- ① ガイダンスカウンセラー有資格者 49,800 円
- ② 構成団体有資格者（カウンセリング心理士、学校カウンセラー、学校心理士、キャリア・カウンセラー、教育カウンセラー、臨床発達心理士のいずれかをお持ちの方） 81,800 円
- ③ 公認心理師 有資格者 108,450 円
- ④ 一般枠（上記のいずれの資格もお持ちでない方） 150,300 円

※上記受講料は、2026 年度受講管理料（1 万円）込みの金額となります。

(3) 科目等受講者（13 講座トライアルコース） ※自己課題探究レポートあり

【会員種別費用】

下記の全種別が 19,800 円となります

- ① ガイダンスカウンセラー有資格者
- ② 構成団体有資格者（カウンセリング心理士、学校カウンセラー、学校心理士、キャリア・カウンセラー、教育カウンセラー、臨床発達心理士のいずれかをお持ちの方）
- ③ 公認心理師有資格者
- ④ 一般枠（上記のいずれの資格もお持ちでない方）

※「科目等受講者」（13 講座トライアルコース）を終了した方は、次年度以降に「全科受講者」に切り替えることが可能です。

その際は差額（例：ガイダンスカウンセラー・自己課題探究レポートありの場合は 67,800 円－19,800 円＝48,000 円）を必要とします。

(4) 48 講座ステップアップ・全科フル学修コース ※自己課題探究レポートあり

【会員種別費用】

- ① ガイダンスカウンセラー有資格者 48,000 円
- ② 構成団体有資格者（カウンセリング心理士、学校カウンセラー、学校心理士、キャリア・カウンセラー、教育カウンセラー、臨床発達心理士のいずれかをお持ちの方） 80,000 円
- ③ 公認心理師有資格者 106,650 円
- ④ 一般枠（上記のいずれの資格もお持ちでない方） 148,800 円

※上記受講料は、2026 年度受講管理料（1 万円）込みの金額となります。

【特典】

- ① 自由選択科目 15 医療機関実習 30,000 円 *当該科目を選択した方のみ
長野県安曇野市内の医療機関での実習を予定しています。旅費・宿泊費は別途、自己負担となります。
- ② 領域別専門研修として「不登校専門研修」「いじめ専門研修」「自殺対応専門研修」「発達障害専門研修」「グループ対応専門研修」の 5 つの「研修証明書」を発行します。

(5) 48 講座ステップアップ・全科動画学修コース ※自己課題探究レポートなし

【会員種別費用】

- ① ガイダンスカウンセラー有資格者 30,000 円
- ② 構成団体有資格者（カウンセリング心理士、学校カウンセラー、学校心理士、キャリア・カウンセラー、教育カウンセラー、臨床発達心理士のいずれかをお持ちの方） 62,000 円
- ③ 公認心理師 有資格者 88,650 円
- ④ 一般枠（上記のいずれの資格もお持ちでない方） 130,500 円

※上記受講料は、2026 年度受講管理料（1 万円）込みの金額となります。

(6) キャンセルポリシー

【e ラーニングの受講料】

- ① 本協議会にキャンセルをご連絡いただいた日をキャンセル受付日とします。
- ② 学修開始日（2026 年 4 月 1 日）の、2 日前（3 月 30 日）までのキャンセル受付は、納入した受講料全額を返金します。
- ④ 1 日前（3 月 31 日）以降のキャンセルの受付はできません。（納入した受講料は返金できません）
- ④ 2026 年 3 月 1 日以降の「コース」ならびに「会員種別」の変更はできません。

※1 ご入金がクレジットカード決済であった場合は、返金手数料は頂きません。

※2 ご入金が銀行振込であった場合は、返金の際に振込手数料の実費を差引いた額をお振込みします。

【医療機関実習の実習費】

- ① 納入した実習費は原則として返金できません。
- ② 実習日程は、実習月（お申込み時に選択した月）の前月 1 日以降 15 日までに、実習先の医療機関と個別に調整いただきますが、万が一調整がつかなかった場合は合意の上キャンセルとし、納入した実習費全額を返金します。
- ③ 但し、実習月の前月の 15 日以降、キャンセルのお申し出をされた場合は、事務手数料 3,000 円を差し引いた金額を返金します。

6. プログラムの終了年度について

諸般の事情により、早期（2025 年度の開始後 3 年～5 年）にプログラムを終了する場合がありますので、受講をご希望される方はお早めにお申し込みください。本研修プログラムの開講を終了する場合は、終了する年度の前年度の受講申込み時期までにお知らせいたします。

資料 1：カリキュラム表

※13 講座トライアルコースは科目 1 と科目 2（*印）

※講師は、それぞれの分野の第一線で活躍されている方、または近い将来、そのような活躍が見込まれている方で、大学院教育の経験をお持ちの方です。大学院担当経験のない場合はその分野で余人をもって代えがたい方であります。各講師の所属と職名は講師依頼時点(2024 年 12 月)の主なもの。

第 1 分野：スクールカウンセリングの専門基礎：3 科目 23 講座

科目 1 スクールカウンセリングの基礎：3 講座 *トライアルコース対象科目

ねらい：スクールカウンセリングの基礎となる 3 つの主要な心理学の学びを通して、受講者が改めて自分の活動の立ち位置についての理解を深めるようにする。

1) 講座：カウンセリング心理学

講師・益子洋人氏：北海商科大学商学部准教授／元北海道教育大学大学院教育学研究科准教授

2) 講座：学校心理学

講師・石隈利紀氏：東京成徳大学大学院心理学研究科特任教授

3) 講座：発達心理学

講師・森口佑介氏：京都大学大学院文学研究科准教授

科目 2 スクールカウンセリングの諸理論と実践：10 講座 *トライアルコース対象科目

ねらい：カウンセリング心理学の各理論を精査し、スクールカウンセリングの実践に活用できると思われるポイントを絞り、受講者はそれらを自分の実践にどのように活用したらよいのかについてアイデアを深めるようにする。

1) 講座：精神分析的アプローチの理論と実践

講師・田辺肇氏：静岡大学人文社会科学部教授（大学院人文社会科学研究科教授）

2) 講座：来談者中心アプローチの理論と実践

講師・諸富祥彦氏：明治大学文学部教授（大学院文学研究科兼任）

3) 講座：応用行動分析的アプローチの理論と実践

講師・神村栄一氏：新潟大学大学院教職実践学研究科教授

4) 講座：認知行動療法的アプローチの理論と実践

講師・石川信一氏：同志社大学心理学部教授（大学院心理学研究科兼任）

5) 講座：解決志向ブリーフセラピーの理論と実践

講師・黒沢幸子氏：目白大学心理学部特任教授（大学院心理学研究科兼任）

6) 講座：交流分析的アプローチの理論と実践

講師・小澤真氏：聖徳大学心理・福祉学部教授（大学院臨床心理学研究科兼任）

7) 講座：キャリアカウンセリングの理論と実践

講師・下村英雄氏：独立行政法人労働政策研究・研修機構 職業構造・職業指導部門統括研究員/東京成徳大学大学院心理学研究科非常勤講師

8) 講座：家族療法の理論と実践

講師・若島孔文氏：東北大学大学院教育学研究科教授

9) 講座：グループアプローチの理論と実践

講師・正保春彦氏：茨城大学人文社会科学部特任教授（大学院人文社会科学研究科特任教授）

10) 講座：ピアサポートの理論と実践

講師・梅川康治氏：元大阪教育大学大学院連合教職実践研究科特任教授

科目3 児童生徒の臨床心理的理解：10 講座 （第5講座のみ上下の2講座を含む）

ねらい：児童生徒の不登校や自殺、非行あるいは心や行動の疾病など、行動と発達の諸問題に結びつくような臨床的な角度から受講者が子どもたちの発達や心理的な力動について理解を深めるようにする。

1) 講座：発達課題から見た臨床心理的理解

講師・近藤清美氏：帝京大学文学部教授（大学院文学研究科教授）

2) 講座：キャリア発達からの臨床心理的理解

講師・永作稔氏：十文字学園女子大学教育人文学部准教授／元駿河台大学大学院心理学研究科准教授

3) 講座：学業発達からの臨床心理的理解

講師・涌井恵氏：白百合女子大学人間総合学部准教授（大学院文学研究科兼任）

4) 講座：発達障害からの臨床心理的理解

講師・黒田美保氏：田園調布学園大学人間科学部教授（大学院人間学研究科兼任）

5) 講座：精神医学・心身医学からの臨床心理的理解（上）（下）

講師・飯田俊穂氏：安曇野内科ストレスケアクリニック院長／昭和医科大学医学部兼任講師

6) 講座：家庭環境から見た臨床心理的理解：虐待、ヤングケアラー、貧困問題

講師・森田久美子氏：立正大学社会福祉学部教授（大学院社会福祉学研究科教授）

7) 講座：非行・矯正教育から見た臨床心理的理解（関連する法規理解を含む）

講師・原田隆之氏：筑波大学人間系・附属学校教育局教授（大学院人間総合科学学術院教授）

8) 講座：学校制度や文化と現代の児童生徒の心理

講師・杉森伸吉氏：東京学芸大学教育学部教授(大学院教育学研究科・連合学校教育学研究科兼任)

9) 講座：セクシャルマイノリティの理解

講師・梅宮れいか氏：福島学院大学大学院心理学研究科教授

第2分野：スクールカウンセリングの方法：5 科目 20 講座

科目4 カウンセリング面接・相談法：3 講座

ねらい：カウンセリングの原点である面接について、その効果的な方法とともに、そこで求められる倫理的判断について理解を深める。学校という組織のなかで児童生徒に対し行われる面接・相談の「守秘義務の特殊性」についても理解を深める。学校の間で行われる保護者との面接相談の特性(在り方)についても理解を深めるようにする。

1) 講座：学校教育相談論（「子どもを安心させ勇気づける面接相談」を含む）

講師・春日井敏之氏：立命館大学名誉教授（元同大学院教職研究科教授）

2) 講座：初回面接相談（「面接相談の倫理・守秘義務のあり方」を含む）

講師・田村節子氏：元東京成徳大学大学院心理学研究科教授

3) 講座：保護者との面接相談

講師・嶋崎政男氏：神田外語大学客員教授

科目5 アセスメントとケースフォーミュレーション：5 講座

ねらい：エビデンスに基づく支援を行うために、問題の背景にある多様な側面をアセスメントし当該ケースの支援計画を作る必要がある。そのため学校における子どもの問題理解や支援に必要な幅広いアセスメントの視点やアセスメント結果と支援計画との関係性について理解を深める。また、学校で行われる主な心理的アセスメントの種類について、実施方法や結果の解釈、支援計画への活かし方について理解を深めるようにする。

1) 講座：アセスメントとケースフォーミュレーション論（BPS モデルならびに DSM 理解を含む）

講師・飯田順子氏：筑波大学人間系・附属学校教育局教授

2) 講座：知能検査・発達検査

講師・黒田美保氏：田園調布学園大学人間科学部教授（大学院人間学研究科兼任）

3) 講座：パーソナリティ検査：質問紙法（YG 性格検査、エゴグラム、職業レディネス・テスト）、投影法（ロールシャッハテスト）、描画法（バウムテスト、HTP（HTTP））など

講師・小塩真司氏：早稲田大学文学学術院文化構想学部教授（大学院文学研究科教授）

4) 講座：精神健康度検査（抑うつ状態・傾向など）

講師・佐藤寛氏：関西学院大学文学部教授（大学院文学研究科兼任）

5) 講座：学級風土、学校風土のアセスメント（Q-U テストなど）

講師・粕谷貴志氏：奈良教育大学教職大学院教授

科目6 チーム学校とコンサルテーション：3 講座

ねらい：異なる領域の専門家どうしが助け合うコンサルテーションにより、問題の理解や解決に対してより多角的に取り組むことが可能となる。さまざまな問題に直面する教師や管理職の相談に対し、チーム学校の一員としてどのようにかかわるのがよいかについて理解を深める。また助言を求めてくる保護者からの相談に対して、どのような対応や助言の仕方が適切かについても理解を深める。さらに校内での事例検討会の持ち方や助言の仕方についても理解を深めるようにする。

1) 講座：チーム学校論と教師・管理職へのコンサルテーション

講師・水野治久氏：大阪教育大学総合教育系教授

2) 講座：保護者へのコンサルテーション

講師・田村節子氏：元東京成徳大学大学院心理科学研究科教授

3) 講座：事例検討会

講師・小林正幸氏：東京学芸大学名誉教授（元同大学大学院教育学研究科教授）

科目7 チーム支援とコーディネーション：2 講座

ねらい：個別の面接相談だけの支援では限界が明らかに見える場合は、学校の教育体制や地域の医療・福祉の支援体制と連携したチーム支援が有効である。スクールカウンセラーの窓口となる教員のほか、担任や管理職などの学校関係者のほか保護者までを含めたチーム支援の作り方とその進め方について理解を深める。さらに、学校外の行政機関ならびに医療機関、福祉機関との連携の仕方についても理解を深めるようにする。

1) 講座：教師、保護者との連携によるチーム支援

講師・栗原慎二氏：広島大学大学院人間社会科学研究科教授

2) 講座：多職種地域連携（医療・福祉機関等とのかかわり方を含む）

講師・伊藤美奈子氏：奈良女子大学研究生院生活環境科学系教授（大学院人間文化総合科学研究科教授）

科目8 ソーシャルエモショナル・ラーニング（SEL）とガイダンスプログラム：7 講座

ねらい：生徒指導上の問題の未然防止のためだけでなく、子どもたちに社会性や情動の自己調節力を身につけたり、人生を主体的、能動的に生きていく力を育てたりする心理教育や支援プログラムの実施についての理解を深めるようにする。

1) 講座：構成的グループエンカウンター

講師・大友秀人氏：青森明の星短期大学客員教授／元北海商科大学商学部教授

2) 講座：ソーシャルスキルトレーニング

講師・藤枝静暁氏：埼玉学園大学大学院心理科学研究科教授

3) 講座：アサーショントレーニング

講師・菅沼憲治氏：松蔭大学教授／聖徳大学名誉教授（同大学院臨床心理科学研究科非常勤講師）

4) 講座：ストレスマネジメント教育

講師・嶋田洋徳氏：早稲田大学人間科学学術院教授

5) 講座：アンガーマネジメント教育

講師・寺坂明子氏：大阪教育大学総合教育系教育心理科学部門准教授（大学院教育学研究科兼任）

6) 講座：キャリアガイダンス

講師・藤田晃之氏：筑波大学大学院人間総合科学学術院人間総合科学研究群教育学学位プログラム教授

7) 講座：学習支援プログラム

講師・小野瀬雅人氏：聖徳大学教育学部教授（大学院児童学研究科兼任）

第3分野 スクールカウンセリングの課題と実践：6科目 18講座

科目9 スクールカウンセラーの役割と責任：1講座

ねらい：急増している発達障害の相談を含むスクールカウンセラーの基本業務と責任の理解、そのために求められるコンピテンシーや倫理的判断、エビデンスに基づく支援、カウンセラーとしての成長のための生涯学習、科学者-実践家モデルなどについて理解を深めるようにする。

1) 講座：スクールカウンセラーの役割と責任

講師・新井雅氏：跡見学園女子大学心理学部教授（大学院人文科学研究科教授）

科目10 不登校の未然防止と対応：4講座

ねらい：不登校の未然防止と対応について、国の不登校に関する政策・制度・法規の理解のうえ、児童生徒の発達段階を踏まえた支援ができること、チーム学校の一員として学校内のコンサルテーションに積極的に取り組み、保護者や地域の医療・福祉・行政機関との連携をすることなどについての理解を深めるようにする。

1) 講座：児童生徒の不登校に関する基本的理解（関連する政策・制度・法規の理解を含む）

講師・野田正人氏：立命館大学大学院人間科学研究科特任教授

2) 講座：不登校を予防する学校・学級づくり

講師・粕谷貴志氏：奈良教育大学教職大学院教授

3) 講座：休みがちな子どもに対する支援の取り組み

講師・新井雅氏：跡見学園女子大学心理学部教授（大学院人文科学研究科教授）

4) 講座：不登校の子どもに対する支援の取り組み

講師・春日井敏之氏：立命館大学名誉教授（元同大学院教職研究科教授）

科目11 いじめの未然防止と対応：6講座

ねらい：いじめの未然防止と対応について、国のいじめに関する政策・制度・法規の理解のうえ、児童生徒の発達段階を踏まえた支援ができること、チーム学校の一員として学校内のコンサルテーションに積極的に取り組み、保護者や地域の医療・福祉・行政機関との連携をすることなどについての理解を深めるようにする。なお児童生徒からいじめの相談を受けた際の「守秘義務」の解除と情報の共有化の仕方については、科目4の②初回面接相談（「面接相談の倫理・守秘義務のあり方」）と科目9の「スクールカウンセラーの役割と責任」でも扱われる。

1) 講座：いじめ問題に関する基本的理解（関連する政策・制度・法規理解を含む）

講師・中村豊氏：東京理科大学教育支援機構教職教育センター教授（大学院理学研究科教授）

2) 講座：児童生徒が「いじめをしない・いじめを許さない人」に育つための学校づくり

講師・新井肇氏：関西外国語大学外国語学部教授（大学院外国語学研究科兼任）／兵庫教育大学大学院学校教育研究科客員教授

3) 講座：いじめの未然防止に向けた具体的取り組み

講師・中村豊氏：東京理科大学教育支援機構教職教育センター教授（大学院理学研究科教授）

4) 講座：いじめの早期発見と組織的対応の実践

講師・春日井敏之氏：立命館大学名誉教授（元同大学院教職研究科教授）

5) 講座：いじめの解決プロセス（被害者支援と加害者へのアプローチ）

講師・伊藤美奈子氏：奈良女子大学大学院生活環境科学系教授（大学院人間文化総合科学研究科教授）

6) 講座：いじめの重大事態の背景調査について

講師・金山健一氏：神戸親和大学教育学部教授（大学院文学研究科教授兼任）

科目12 自殺の未然防止と対応：4講座

ねらい：自殺の未然防止と対応について、国の自殺予防に関する政策・制度・法規の理解のうえ、児童生徒の発達段階を踏まえた支援ができること、チーム学校の一員として学校内のコンサルテーションに積極的に取り組み、保護者や地域の医療・福祉・行政機関との連携をすることなどについての理解を深めるようにする。なお児童生徒から自殺念慮等を示す相談を受けた際の「守秘義務」の解除と情報の共有化の仕方については、科目4の②初回面接相談（「面接相談の倫理・守秘義務のあり方」）と科目9の「スクールカウンセラーの役割と責任」でも扱われる。

1) 講座：児童生徒の自殺に関する基本的理解（現状や背景、関連する政策・制度・法規理解を含む）

講師・新井肇氏：関西外国語大学外国語学部教授（大学院外国語学研究科兼任）／兵庫教育大学大学院学校教育研究科客員教授

2) 講座：自殺防止のための安全・安心な環境づくり

講師・新井肇氏：(同上)

3) 講座：自殺予防教育の目標と具体的展開

講師・新井肇氏：(同上)

4) 講座：自殺リスクの早期発見と危機介入の実際／自殺が起きたときの緊急対応(クライシスマネジメントと心のケア)

講師・田中速氏：東京成徳大学大学院心理学研究科教授／精神科医

科目 13 発達障害支援：2 講座

ねらい：発達の偏りのため学校生活に困難を持つ子どもとその保護者に対し、学校を含む社会が、どのような支援の仕組みを作っているのかを踏まえ、発達障害に関するアセスメントから支援計画を立て、支援に至る流れの理解を深めるようにする。

1) 講座：学校や社会における発達支援の仕組み（関連する政策・制度・法規理解を含む）

講師・山本淳一氏：東京都立大学特任教授／慶應義塾大学名誉教授（元同大学大学院社会学研究科教授）

2) 講座：心理職による発達障害児とその保護者への支援の実際

講師・尾崎康子氏：相模女子大学名誉教授／元富山大学大学院人間発達科学研究科教授

科目 14 危機介入：1 講座

ねらい：地域や学校あるいは学級において発生する災害・事件・事故等のクライシスに対し、危機を回避する方法や危機に陥らない対処方法などの理解とともに、緊急事態に対する応急的な措置や危機の乗り越え方について理解を深めるようにする。なお児童生徒が自殺したときの緊急対応については科目 12 の④で扱うので、ここでは省かれる。

1) 講座：災害・事件・事故等の危機介入と緊急支援

講師・瀧野揚三氏：大阪教育大学学校安全推進センター教授（大学院連合教職実践研究科教授）

【自由選択科目】

科目 15 医療機関実習：1 講座（5 日間の分散実施、8 時間/日、集合対面）

ねらい：公認心理師は医療機関での実習が義務づけられ、臨床心理士も病院等での実習を経験する人が多い。児童生徒の課題には心身の健康問題も多いため、医療機関との連携は欠かせない。医療機関での面接のとり方、心理検査の実施の仕方等を見学観察し、またそれらを一部実施するなどして医療現場での臨床活動を理解し、この経験を医療との連携等において活かすようにする。受け入れ人数に限度があるため自由選択科目とする。

1) 講座：医療機関実習

指導者(代表)・飯田俊穂氏：安曇野内科ストレスケアクリニック院長／昭和医科大学医学部兼任講師

資料 2：「領域別専門研修」の各「研修証明書」の講座名

<不登校専門研修>

不登校にある児童生徒を理解するには、生物・心理・社会のバランスの取れたアセスメントが重要であるため、それぞれをカバーする講座を配置しました。一方で、具体的な介入支援アプローチについては、SC たちは児童生徒の状態・状況に応じて、多様な理論・技法の選択肢を持って臨む必要があるため、あえて特定の理論・技法に基づく講座を指定していません。

1. 31001 児童生徒の不登校に関する基本的理解（関連する政策・制度・法規の理解を含む）講師・野田正人氏
2. 20501 アセスメントとケースフォーミュレーション論（BPS モデルならびに DSM 理解を含む）講師・飯田順子氏
3. 10308 学校制度や文化と現代の児童生徒の心理 講師・杉森伸吉氏
4. 20505 学級風土、学校風土のアセスメント（Q-U テストなど）講師・粕谷貴志氏
5. 10305 精神医学・心身医学からの臨床心理的理解（上・下）講師・飯田俊穂氏
6. 31002 不登校を予防する学校・学級づくり 講師・粕谷貴志氏
7. 31003 休みがちな子どもに対する支援の取り組み 講師・新井雅氏
8. 31004 不登校の子どもに対する支援の取り組み 講師・春日井敏之氏
9. 20701 教師・保護者との連携によるチーム支援 講師・栗原慎二氏
10. 20702 多職種地域連携（医療・福祉機関等とのかわり方を含む）講師・伊藤美奈子氏

<いじめ専門研修>

学校・学級の状態を適切にアセスメントし、児童生徒が安心できる環境づくりを通して、いじめの未然防止を進めるというプロアクティブな支援は、ガイダンスカウンセラーたちが SC として働く際にも専門性を発揮できる分野です。一方で、それらは学校の教

職員集団との協働のもとで、学校全体の活動として行っていくことが重要です。このため、チーム支援の講座を必修としています。

1. 31101 いじめ問題に関する基本的理解（関連する政策・制度・法規理解を含む） 講師・中村豊氏
2. 20505 学級風土、学校風土のアセスメント（Q-U テストなど） 講師・粕谷貴志氏
3. 31102 児童生徒が「いじめをしない・いじめを許さない人」に育つための学校づくり 講師・新井肇氏
4. 31103 いじめの未然防止に向けた具体的取り組み 講師・中村豊氏
5. 31104 いじめの早期発見と組織的対応の実践 講師・春日井敏之氏
6. 31105 いじめの解決プロセス（被害者支援と加害者へのアプローチ） 講師・伊藤美奈子氏
7. 31106 いじめの重大事態の背景調査について 講師・金山健一氏
8. 20701 教師・保護者との連携によるチーム支援 講師・栗原慎二氏
9. 10209 グループアプローチの理論と実践 講師・正保春彦氏
10. 10210 ピアサポートの理論と実践 講師・梅川康治氏

<自殺対応専門研修>

自殺対応について、SC たちは、教員からの情報や観察、アンケート等をもとに、常日頃からリスクのある児童生徒を把握しておく必要があります。その際、臨床心理士たちにならい、ガイダンスカウンセラーたちがより力を入れて専門性を高めておくべき分野が、精神医学や臨床心理学の諸分野です。また、危機発生時に児童生徒の大切な「守り」の環境となる学校組織、先生方を支えるという視点も、外部性を持つ SC ならではの役割と考えます。

1. 31201 児童生徒の自殺に関する基本的理解（現状や背景、関連する政策・制度・法規理解を含む）
講師・新井肇氏
2. 20501 アセスメントとケースフォーミュレーション論（BPS モデルならびに DSM 理解を含む） 講師・飯田順子氏
3. 10305 精神医学・心身医学からの臨床心理的理解（上・下） 講師・飯田俊穂氏
4. 20504 精神健康度検査(抑うつ状態・傾向など) 講師・佐藤寛氏
5. 31204 自殺リスクの早期発見と危機介入の実践／自殺が起きたときの緊急対応(クライシスマネジメントと心のケア)
講師・田中速氏
6. 31202 自殺防止のための安全・安心な環境づくり 講師・新井肇氏
7. 31203 自殺予防教育の目標と具体的展開 講師・新井肇氏
8. 31401 災害・事件・事故等の危機介入と緊急支援 講師・瀧野揚三氏
9. 20701 教師、保護者との連携によるチーム支援 講師・栗原慎二氏
10. 20702 多職種地域連携（医療・福祉機関等とのかかわり方を含む） 講師・伊藤美奈子氏

<発達障害専門研修>

SC たちが発達障害の児童生徒を理解する際、目の前の行動をどうするかではなく、その行動の背景を的確に見立て、当事者の視点に立った支援が必要となります。とりわけ「知能検査・発達検査」については、主要な検査の内容を知っているだけでなく、結果を適切に読み取り、学校や家庭での個人の実際の様子と丁寧に照らし合わせながら解釈を行えることが絶対条件です。また、コンサルテーションのなかで、実際の指導支援に生かせる具体的なアイデアを提案できるかも重要となります。本講座群の受講のみでは、現場で専門家として活躍する水準としては不足している部分も多く、さらなる学習や臨床経験が必要に感じます。

1. 10103 発達心理学 講師・森口佑介氏
2. 10301 発達課題から見た臨床心理的理解 講師・近藤清美氏
3. 10304 発達障害からの臨床心理的理解 講師・黒田美保氏
4. 20501 アセスメントとケースフォーミュレーション論（BPS モデルならびに DSM 理解を含む） 講師・飯田順子氏
5. 20502 知能検査・発達検査 講師・黒田美保氏
6. 10203 応用行動分析的アプローチの理論と実践 講師・神村栄一氏
7. 20701 教師、保護者との連携によるチーム支援 講師・栗原慎二氏
8. 20702 多職種地域連携（医療・福祉機関等とのかかわり方を含む） 講師・伊藤美奈子氏
9. 31301 学校や社会における発達支援の仕組み（関連する政策・制度・法規理解を含む） 講師・山本淳一氏
10. 31302 心理職による発達障害児とその保護者への支援の実践 講師・尾崎康子氏

<グループ対応専門研修>

SC たちが学校現場でグループアプローチを提供する際に重要なのは、いかに確かなアセスメントに基づいたプログラムを作成するかということです。SC たちは学校の常駐する立場にないため、児童生徒個々人や学級集団の実態を十分に把握できておりませ

ん。実施の際には教員との話し合いのもとで、それらを適切にアセスメントし、協働してプログラムの作成や展開を行う必要があります。そこで、各論の前にアセスメントの講座を必修と位置づけております。

1. 20505 学級風土、学校風土のアセスメント（Q-U テストなど） 講師・粕谷貴志氏
2. 10209 グループアプローチの理論と実践 講師・正保春彦氏
3. 20801 構成的グループエンカウンター 講師・大友秀人氏
4. 20802 ソーシャルスキルトレーニング 講師・藤枝静暁氏
5. 20803 アサーショントレーニング 講師・菅沼憲治氏
6. 20804 ストレスマネジメント教育 講師・嶋田洋徳氏
7. 20805 アンガーマネジメント教育 講師・寺坂明子氏
8. 20806 キャリアガイダンス 講師・藤田晃之氏
9. 20807 学習支援プログラム 講師・小野瀬雅人氏
10. 10210 ピアサポートの理論と実践 講師・梅川康治氏

更新 20251205